

令和6年10月16日

正和会視察報告

報告者：幡垣正生

【日時】令和6年10月16日(水)14:00~15:30

【場所】兵庫県伊丹市

【参加者】仲間正司、森田哲哉、山崎貴裕、小林貢、武藤政義、
小澤芳輝、佐藤弘治、幡垣正生、清水義朋



視察テーマ: 安全・安心見守りネットワーク施策について

★調査事項

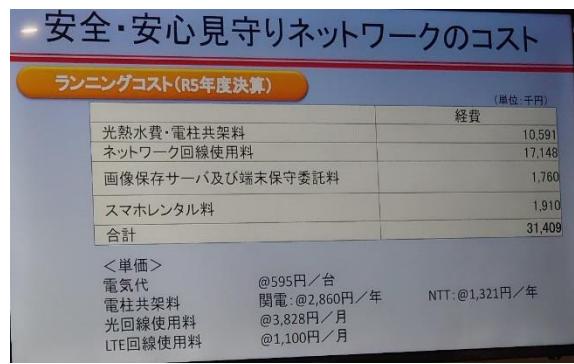
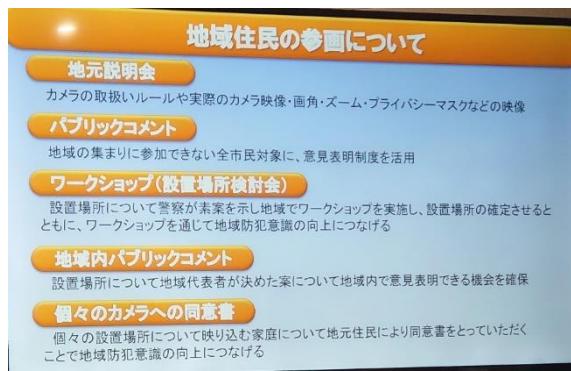
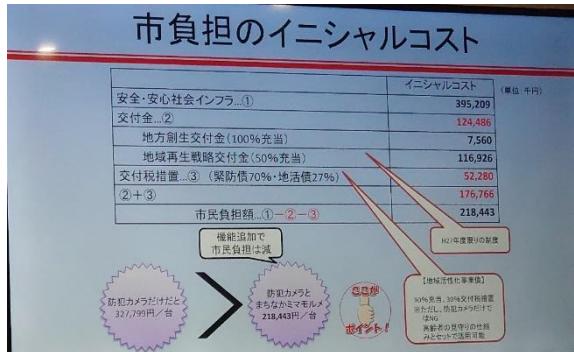
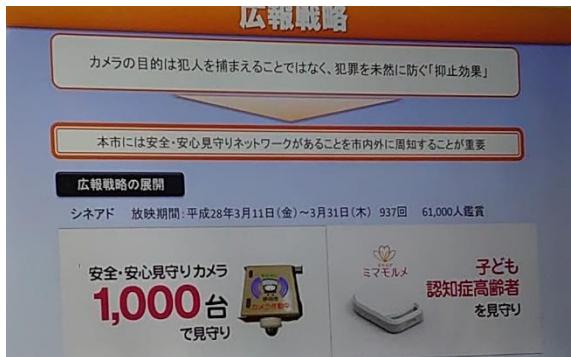
1. 本事業の導入に至った経緯について

伊丹市では、安全・安心のまちづくりの実現に向けて、犯罪の抑止を目的として、通学路や公園、広場等に、また、災害時の監視体制の強化、検証を目的として、過去の水害のあった場所等に「安全・安心見守りカメラ」を設置した。機運が高まった要因は、平成26年9月女児殺害・遺棄事件と平成27年2月和歌山県紀の川市・男児殺害事件が関係している。

地域防犯対策1150台・地域防災対策50台の合計1200台が設置してある。



子どもと高齢者見守りに、ミマモルメ（位置情報通知サービス）が活躍している。カメラと同時に、ビーコン受信機を設置する。ビーコン発信機を身守り対象者の子どもや高齢者が持つことで対象者の居場所を把握することができて、保護者の安心が実現する



2. 事業概要・関係各所との事業スキームについて

安全・安心見守りカメラは、設置に同意していただける地域に設置します。さらに、設置場所は、市で決定するのではなく、伊丹警察署のアドバイスのもと、地域で熟議を重ねながら決定します。

〈設置に向けての地域での合意形成のステップ〉

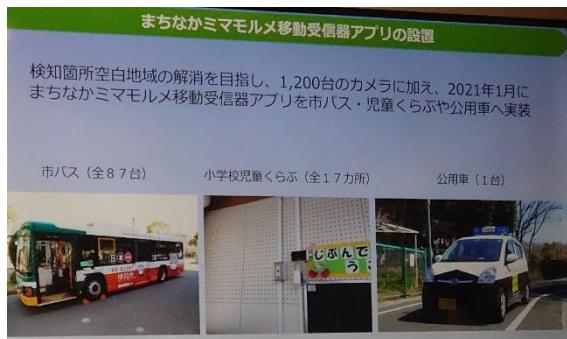
- (1) 地域懇談会の開催
- (2) 地元説明会の開催 (H27. 6. 28～H27. 8. 9)
- (3) 各小学校区で意見のとりまとめ
- (4) 設置箇所の決定(ワークショップ実施)
- (5) 映り込む個々の家庭の了承
- (6) 地域パブリックコメント

3. 経費について

- ① 導入経費：イニシャルコスト(1000台)に対して、3億9520万9千円
- ② ランニングコスト：(令和5年度決算)3140万9千円
- ③ その他

4. 安全・安心見守りカメラの設置について

- ① 設置場所の選定について:設置場所は警察等からのアドバイスをもとに地域が決定した通学路や公園、広場、また、自然災害の監視が必要な河川等に設置します。例えば、道路・公園・広場・河川・マンション敷地や事業所敷地内に設置します。防災目的のカメラについては、過去の水害等を参考に、国や兵庫県による河川等監視カメラの設置の有無を考慮し、市で設置場所を決定します。尚、限られた人が撮影の対象となり、公共の場所ではないため設置しません。
- ② 市民への配慮・理解について:撮影範囲は、必要最小限の範囲とします。また、安全・安心見守りカメラに映り込む市民の方が希望される場合に、プライバシーマスク機能を活用する等、可能な限り私的な空間の個人を識別できる画像が記録されないようにします。設置していることの表示 安全・安心見守りカメラを設置する時は、誰にでもわかるよう見やすい場所に、カメラが作動中であることを表示します。
そして、責任者の設置 安全・安心見守りカメラの画像データを適に取扱うため、責任者を置きます。



(1) 管理責任者…市の担当室長 安全・安心見守りカメラの運用・管理が正しく行われるよう、そのすべてを取りまとめます。

(2) 取扱責任者…市の担当課長 安全・安心見守りカメラについて、実際の取り扱いの責任者となります。

(3) 担当者…管理責任者の許可を得て、取扱責任者が指名した者 取扱責任者の指示のもと複数名で、安全・安心見守りカメラの操作や画像データの複製を行います。また、その操作状況を記録し、管理責任者に報告します。

秘密の保持 責任者や画像を取扱う職員は、画像から知り得た情報を正当な理由もなく第三者に漏らしません。

5. 事業の効果について:街頭犯認知件数が平成27年比較、令和5年61.2%減

6. 課題について:広域連携することで広範囲の見守りが実現する。

7. その他:ビーコン受信機を市内、自動販売機・移動受信機搭載バス・市所有車に設置搭載する事で更に位置情報の感知がよくなる。

8. 現地視察:伊丹駅に設置されている、カメラとビーコン受信機を確認しました。



【所感】

今回の視察で伊丹市が安心見守りネットワーク事業を推進して、日本一安全・安心なまち伊丹市を構築することで、市民意識の向上が令和5年度市民意識調査でもわかります。「住みやすい」87.6%「住み続けたい」76.9%と回答がありました。この施策により、夜間帯における治安向上が図られていると感じている。そして通勤通学や子育て等についても安心感を持てると感じていると結果が出た。

そして、伊丹市と阪急阪神ホールディングス(株)で（H27.11.9）官民連携で安全安心まちづくりの為に協定を締結をしました。今回の取り組みは、伊丹市内に限られています。隣接している市にも働きかけを行い、見守りの範囲を拡大出来れば更に安心安全なまちづくりが推進することになると思いました。街の面積に対してのカメラ1台の比率では福生市においてもそれ程かわりませんが、ミマモルメのようなビーコン受信機の設置に高額なコストが係ることがわかりました。本市において伊丹市の様な施策は今後、検討していくことが必要だと感じました。

今回の視察で勉強したことを正和会として、引き続き検討して参りたいと思います。より一層、市民の安全安心を確保するために正和会一丸となって頑張って参ります。